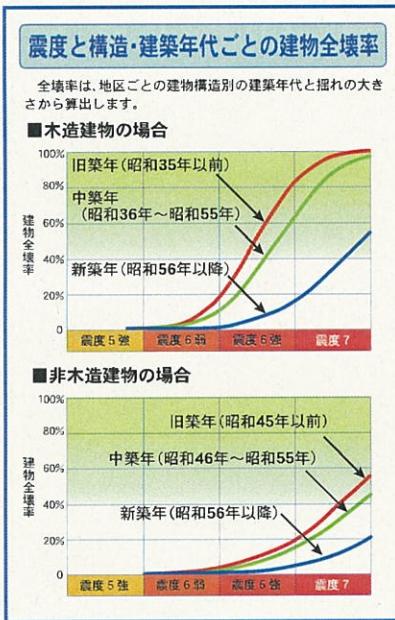


地域危険度マップ

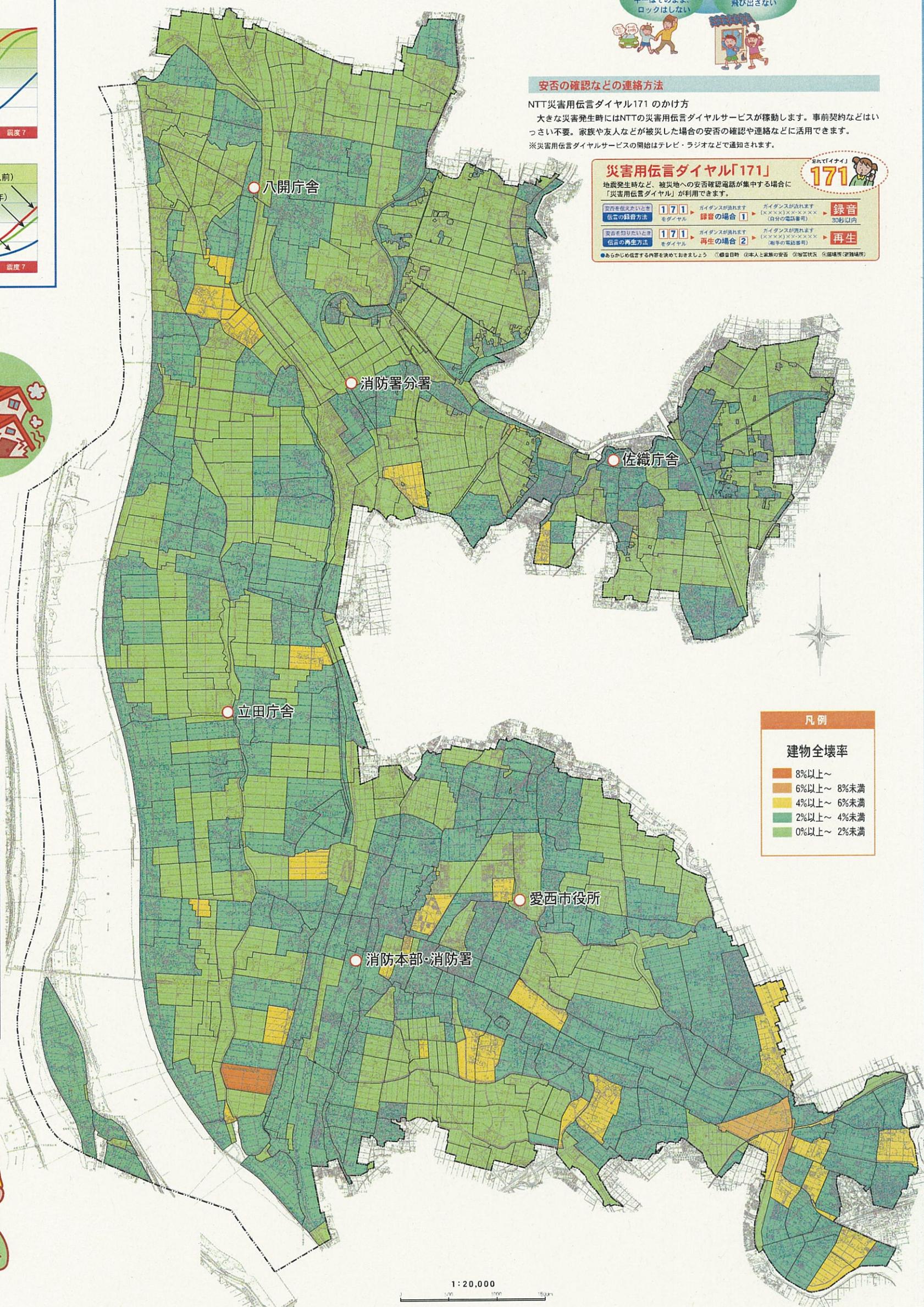
(建物全壊率)

東海地震と東南海地震が同時に発生した場合(東海・東南海連動地震)を想定して、愛西市域の危険度(建物全壊率)を地域危険度マップにまとめました。危険度は、揺れやすさマップで示した強さの揺れとなった場合に、建物に被害が生じる程度を「建物全壊率」として表しています。建物全壊率は、揺れの大きさ(震度)と建築物の構造や建築年代から、地区ごとに計算し色分けをしています。



愛西市域の危険度

愛西市では、東海・東南海連動地震が発生した場合、全域で震度6弱の揺れが予測されます。この揺れに対する危険度(建物全壊率)は、ほとんどの地域で4%以下ですが、耐震性が低いとされている昭和55年以前の建物割合が多い地域や予測震度がやや大きい地域では、最大で9%とやや高いことが予測されます。



耐震診断・耐震改修が重要です

●住宅の耐震性について

木造住宅の倒壊率は古い住宅ほど高く、老朽化や耐震壁の少なさ、または、配置等のバランスの悪さが倒壊の要因であるといわれています。特に、昭和56年5月31日以前に着工された住宅や、構造、形、備って大きな窓があるなどバランスの取れていない住宅では耐震性が低くなっています。

●耐震化について

都市計画課において、住宅・建築物の耐震化をはじめ、建築全般について相談窓口を設置し、相談に応じています。また、県及び関係団体と共同して市内で開催される地震防災講演会等において、耐震化をはじめとした住宅の相談に応じています。

